

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677900070
法人名	有限会社 共生
事業所名	グループホーム 共生
訪問調査日	平成 20 年 6 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 17 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	4677900070
法人名	有限会社 共生
事業所名	グループホーム 共生
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町佐多郡896-2 (電 話) 0994-28-4884

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年6月24日 評価確定日 平成20年7月17日

【情報提供票より】(20年6月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算 10.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800円		

(4) 利用者の概要(6月16日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 82歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	佐多郡診療所 佐多歯科診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南大隅町の佐多の古里集落の中の自然に囲まれたグループホームである。職員は、利用者を自分の本当の家族のように、暖かく・さり気なく・親しみを感じられる声かけをしている。ホームで数匹の子犬を飼い、利用者と一緒にベッドに休んだりして、利用者が穏やかな生活を取り戻し、アニマルセラピーに役立っている。運営者が地域住民でもあり、地域の方々からの新鮮な食材の差し入れなどで、利用者も若い頃から食べていた地元でしか食べれない魚など食べることができる地域に密着したグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価は、すぐに改善に取り組んだが、継続して取り組んでいない。年1回の評価を計画的・継続的に取り組み、事業所の質の向上に活かすことを望みます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員での取り組みはなされていない。自己評価は、職員一人ひとりの意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能になります。計画的・継続的に取り組み、事業所の質の向上に活かすことを望みます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年2月より不定期に5回開催されている。会議の内容は、事業所からの報告にとどまっている。運営推進会議は、幅広い立場の人が参加する会議とし、外部の人々の目を通して、事業所の取り組み内容や評価の改善課題を話し合う場になることを望みます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や電話で、家族からの要望を聞いている。家族から要望を受けたときは、申し送りノートに書いて、職員は、共有している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の入学式・卒業式に出席したり小学生との交流をしている。地域のゲートボール大会の参加や見学をして、地域の方々との交流をしている。新鮮な食材の差し入れが多く、地域と密着していることが伺える。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの基本理念である「入居者の方一人ひとりに責任感を持たせることにより、QOL(生活の質)の向上・ADL・IADL(日常生活動作)の拡大、認知の進行防止を図る」を掲げている。地域密着型サービスとしての理念には未だ至っていない。		地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげることが期待されます。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、開設時からの理念を共有して、できることをやってもらうことを念頭にいれ、ADLの向上や認知症の進行防止に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の入学式・卒業式に出席したり小学生との交流をしている。地域のゲートボール大会の参加や見学をして、地域の方々との交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員での取り組みはなされていない。前回の外部評価は、すぐに改善に取り組んだが、継続して取り組んでいない。		自己評価は、職員一人ひとりの意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能になります。年1回の評価を計画的・継続的に取り組み、事業所の質の向上に活かすことを望みます。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年2月より不定期に5回開催されている。会議の内容は、事業所からの報告にとどまっている。		運営推進会議は、幅広い立場の人が参加する会議とし、外部の人々の目を通して、事業所の取り組み内容や評価の改善課題を話し合う場になることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の現状報告をしたり、現在、利用者のオムツの処理について、話し合っているところである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を話している。遠方の家族には、請求書の送付時に、手紙や写真を同封して近況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で、家族からの要望を聞いている。家族から要望を受けたときは、申し送りノートに書いて、職員は、共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職時は、引継ぎを十分するように心がけているが、できない場合は管理者が、助言しながら1ヶ月の研修期間、3ヶ月の見習い期間をもうけ、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会への毎月参加、外部研修への参加を促している。研修に参加した職員は、職員会議で報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者の連絡協議会での交流はあるが、職員の地域の同業者との勉強会・相互訪問などはしていない。		職員が、他のグループホームへの相互訪問・勉強会をすることにより、サービスの質の向上・職員育成に役立つ実践的な交流の取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
d)heyk					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスを開始する前に、2日から3日の体験入居することもある。病院からの入居の場合は、職員は主治医の意見を聞いて、利用者が安心してサービスの開始ができるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、最初から支援するのではなく、利用者のできることを大切に、一緒に過ごし、支えあう関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者との会話の中から思い、希望を把握することに、努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリングシートを使って担当者会議を開催し、職員の声を介護計画に反映するように努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者が安定しているときは6ヶ月毎に、変化のあった場合はその都度見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の病院受診の送迎をしている。主治医の往診を受け、医療処置を受けながらの生活の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医に、受診支援をしている。診療所に対応できないときは、家族に報告して、総合病院への受診支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、家族と話し合い確認を取っている。重度化した場合は、家族とかかりつけ医と話し合い、対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入職時に個人情報の取り扱いについて徹底が図られている。利用者への声かけは、若い頃からの慣れ親しんだ佐多弁を使いコミュニケーションがうまく取れるようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のペースを押し付けず、朝寝坊したり、急がせることなく利用者のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方々から釣りたての新鮮な魚を買ったときは、刺身を作って食べるなど、新鮮な食材を豊富に取り入れた食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かしているが、入浴を拒否する人が多く、声かけの工夫をして入浴支援をしている。夏はシャワーで、汗を流してもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の植物の手入れ・草取りや、調理の下準備・箸配り、そして洗濯物たたみなど、利用者の力量にあわせた場面作りをしている。カラオケで歌ったり、歌いながら踊ったりと楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠足・ドライブ・墓参りと戸外に出かけている。ツワ取り・竹の子とり・港でのさかな釣りなど、若い頃やっていた事をできるだけ支援することに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある方の癖をつかみ、一緒に外に出て散歩して帰ってきている。近所の方々に声かけて、見守ってもらっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防火災訓練を年2回している。夜間想定・地震想定 の避難訓練はしていない。台風時の停電の対策はしている。		職員全員が、自信を持って避難誘導できるように、夜間想定・地震想定 の自主訓練をされることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の状態や力にあわせて、刻み食・とろみ食を作っている。献立の栄養バランス・カロリーの把握をしていない。</p>		<p>献立が偏らないように、定期的に栄養バランスのチェックをしてもらい、アドバイスを貰うことを望みます。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ほとんどの利用者は、日中は食堂兼居間で、食卓テーブルを囲んだり、ソファに座って、職員と会話したりテレビを観て過ごされている。食堂からの料理の匂い・まな板の音など生活感が感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族に、使い慣れたものを持ってきてもらう必要性を話しているが、自宅からの持ち込みが少ない。しかし、中には個性のある居室を作って、居心地よく過ごしている利用者もおられる。</p>		